

しまの風

（発行者） 杵藤農林事務所杵島農業改良普及センター

佐賀県杵島郡白石町大字東郷2546-2

TEL0952-84-3625 FAX0952-84-6425

E-mail : kitounourin@pref.saga.lg.jp

URL : http://www.pref.saga.lg.jp/list02464.html

令和2年6月

第51号

21世紀の主役たち

杵島郡白石町
吉原亨史さん（31歳）

経営面積

米麦大豆 8ha、レンコン 2ha、
タマネギ 2ha、露地葉物野菜 1ha



4Hクラブタマネギプロジェクトの収穫の様子

100年続ける
農業経営を目指して

吉原さんは就農7年目で、父、母とともに米麦大豆、タマネギ、レンコン、露地野菜を栽培されています。JA職員として勤務していた時に生産者とのふれあいの中で、農業の魅力を再認識したことから、親元就農を決意したそうです。就農してからは土地利用型作物に加えてたまねぎの面積を約2倍に拡大され、新たにレンコン栽培も開始されています。

経営理念は「100年以上続く環境にやさしい農業経営」です。そのために、麦からは水田へ、もみ殻は3年に1度レンコン畑にすきこみ、有機物を主体とした土づくりを実践されています。さらにレンコンを無駄なく利用するために自宅の粉碎機でレンコンパウダーを製造し、ロスの少ない農業にも取り組まれています。

また、昨年は佐賀県農業青年クラブ（以下 県4HC）の会長に就任され、見事な手腕で県内140名のクラブ員を牽引し任期を全うされました。そして、今年度は武雄杵島地区全体の4Hクラブである「TK4HアグリマネージメントCC（以下TKCC）」の会長に就任されています。「県4HCで、県内、九州、全国の農業者との情報交換が営農計画を立てるベースの一つになっている。TKCCクラブ員のさらなる経営発展につながるよう交流を密にできる活動を展開していきたい。」と語る吉原さん。今後は父から経営を継承し、規模拡大をすすめ、法人化を目指しています。さらに、生産物や加工品の販路拡大にも意気込む吉原さんの今後の活躍から目が離せません。

本年度の普及活動方針

杵島農業改良普及センター長

江口 満



農業担い手の減少や農業所得の伸び悩み、中山間地域農業の維持・発展など喫緊の課題に対応するため、平成30年度から農業者の所得向上支援、新規就農者の確保・育成、中山間地域農業・農村振興について、県重点プロジェクトとして取り組んでいます。

令和元年度からは園芸農業の産出額向上を図るため「さが園芸生産888億円推進運動」がスタートしました。各生産部会が策定した産地計画の実現に向け、関係機関と連携してその支援に努めていきます。

杵島普及センターでは、「高めよう地域力・伸ばそう若い力で次世代へつなぐ杵島農業」をスローガンに本年度は前述の3つの県重点プロジェクトと9つの地域課題の解決に向けて普及指導活動を展開します。

また、本年度は普及センターの体制見直しがありました。

①野菜特技と花き特技の一本化、②農畜産担当から「水田農業・畜産担当」へ係の名称を変更し、新たに野菜・花き特技を配置して、露地野菜の振興等連携を強化、③果樹、花き、畜産の広域体制（藤津普及との兼務）がなくなりました。

その結果、経営担当（経営2名）、水田農業・畜産担当（作物3名、畜産1名、野菜・花き1名）、園芸担当（果樹1名、野菜・花き5名）となりました。

職員一同精一杯頑張りますので、農業者の皆さんのご理解とご協力を重ねてお願いいたします。

さが園芸生産888億円推進運動

現在、佐賀県では令和10年の園芸産出額を888億円に拡大するべく「さが園芸生産888億円推進運動」を展開しており（2017・629億円）、施設野菜、露地野菜、花き、果樹、茶、それぞれの振興チームで活動を繰り広げています。当杵島地区の野菜関係においても、タマネギ、キャベツ、レタス、ブロッコリー、レンコン、イチゴ、アスパラガス、キュウリ、小ネギ、チンゲンサイと、品目ごとの産地計画を策定したところです。

中でも、露地野菜の主力品目であるタマネギ産地の維持には、生産者が減少する中で、規模拡大のための省力化体系の確立が必須となります。そこで、貯蔵が必要な中晩性タマネギにおいて鉄コンテナを用いた収穫↓貯蔵・乾燥↓出荷までの機械化一貫体系の整備に関係機関と連携して取り組んでいます。昨年度は、北海道や富山県への先進地視察で情報収集を行うとともに、800kg鉄コンテナによる貯蔵・乾燥が可能であることを実証しました。今年度は、鉄コンテナを用いた収穫機械の実証試験に取り組んでいく計画です。

また、888推進運動を効率的に進められるように、作物担当者野菜担当者と連携強化を図るべく4月から普及センターの体制も一部変更となりました（上段の普及活動方針参照）。

今年度は新型コロナウイルスの影響で農業全体が非常に厳しい状況にありますが、普及センターもよりいっそう連携を強めて活動を進めていきますので、御協力をよろしくお願い致します。



富山県におけるハーベスタによる収穫

普及活動トピックス

大麦の産地活性化を目指した新品種導入!!

近年、食糧用大麦は豊作が続き供給過多となっているため、より実需者ニーズに応じた品種の導入が求められています。そこで、江北町青年部を中心に令和2年産から調理後に褐変しない大麦「しらゆり二条」の試験栽培を実施しています。麦ごはんやみそへの利用拡大が期待されることから、新品種の特性を活かすための栽培技術の確立を行っています。

しらゆり二条の特徴

- ① 調理後に褐変しない
- ② 穂発芽耐性に優れる
- ③ 多収である
- ④ 耐倒伏性に優れる
- ⑤ オオムギ縞萎縮病抵抗性を有する

根域制限栽培で高品質果実の安定生産を

佐賀県は、全国の温州ミカン産地の中でも年間降水量が1800mmと多い県です。そんな中でも高品質な果実が安定して生産することが可能な技術として根域制限栽培の導入が進んでいます。現在、杵藤地区では776aの根域制限栽培面積があり、管内においても白石町の2名の方が、根域制限栽培に取り組まれています。

昨年度は夏秋期の多雨により、県内だけでなく全国各地の露地みかん産地で果実品質が伸び悩んだ年となりました。そのような中でも、根域制限栽培ミカンは生産者の方々の努力により、糖度12度程度のミカンが生産されています。

これから温暖化による異常気象がますます懸念されますが、根域制限栽培でおいしいミカンを作りましょう。



経営支援情報

コロナ感染症に対する支援策として様々な資金・給付金が用意されています。

支援分野	支援の内容・対象
<資金> 社会的又は経済的環境の変化による経営状況悪化の場合の経営維持安定を支援	・農林漁業セーフティネット資金 ◆ ★ (貸付限度の引き上げ：1200万円または年間経費等の12分の12)
	・農林漁業セーフティネット資金、スーパーL資金、経営体育成強化資金 (貸付利率の5年間実質無利子化) ◆ ★
	・農業近代化資金 (貸付利率の5年間実質無利子化) ◎ ★
	・新型コロナウイルス感染症対策緊急資金 (アグリマイティー資金) ◎ ★ (新型コロナの影響による減収分の範囲内で短期運転資金、長期運転資金を融資、実質無利子・無担保)
事業継続を支え、再起のための支援	・持続化給付金 ※ 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた月の売上が前年の月平均販売額に比べ(青色申告を行っている農業法人の場合は、前年同月の販売額と比べ)50%以上減少している農業者や農業法人等に、給付金(法人：最大200万円、個人事業主：最大100万円)が給付
野菜、花き、果樹、茶などの高収益作物の次期作に前向き取り組む生産者への支援	・高収益作物次期作支援交付金 ◎ ● ①次期作に前向きに取り組む高収益作物の生産者に対し、種苗等の資材購入や機械レンタル等を支援【支援単価：5万円/10a等】 ②需要促進に取り組む高収益作物の生産者に対し、新たな品種の導入や新たな販売契約に向けた対応などの取組【支援単価：2万円/10a×取組数】

【問合せ先】	◆ 日本政策金融公庫 佐賀支店	0952-27-4120
	★ JA佐賀信連 融資部 農業融資センター	0952-25-5171
	◎ JAさが 最寄の支所へ	
	※ 持続化給付金事業 コールセンター	0120-115-570
	● 市 町	

【県HP】

国の2次補正や県単独事業等もありますので、最新の情報は県ホームページをご覧ください。

佐賀県>分類から探す>しごと・産業>農林水産業>農業>新型コロナウイルス感染症の影響に係る農林水産業関係の支援策について

地域情報コーナー

災害を乗り越え、大町町福母地区で営農を再開

昨年の8月豪雨により、武雄市、大町町では甚大な被害がありました。被災された農業者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

大町町福母地区では農地43haに油が流出し、水稲、大豆の収穫を断念しなければならなかったが、9月の農家説明会で営農再開までの対応について理解が得られました。その後、水稲の刈取搬出、圃場毎の土壌分析、油の酸化分解を促すため石灰散布と耕起、被災した農業機械の復旧に向けた個別相談会の開催など、農家の皆様と関係機関が一体となって取り組んできました。その結果、令和2年産の水稲から営農が再開される運びとなりました。

福母営農組合の灰塚晃幸組合長は、「当時は、営農もそうだが、被災した家屋・農機具のことなど、先が見えず不安ばかりであった。お互いに助け合いながら営農再開に向けた準備がやれたことは良かった。」と語ってもらえました。

普及センターとして今後も支援を継続していきます。



県冬季のついで堂々と発表

「令和元年度佐賀県農業青年冬季のついで」が2月7日、白石町の福富ゆうあい館において開催されました。県内各地域の4Hクラブから代表として選出された若手農業者9名が農業に対する熱い思いを語りました。

杵島地区代表として、「農業青年の提言」には、白石町の山口駿さん、「プロジェクト発表」には、江北町の北原良太さんが出場されました。堂々とした発表で、山口さんは最優秀賞、北原さんは優良賞に輝きました。最優秀賞の山口さんは来年、沖縄で開催予定の「九州・沖縄地区青年農業者会議」で佐賀県代表として発表されます。頑張ってください！

令和元年度 佐賀県農業青年冬季のついで



令和3年度 佐賀県農業大学校

学生募集【定員50名】
水田農業・露地野菜・施設野菜・花き・果樹・畜産

推薦入試

- 願書受付 令和2年8月31日(月)
- 期間 ~9月15日(火)
- 試験日 令和2年10月2日(金)

一般入試

- 願書受付 令和2年11月9日(月)
- 期間 ~11月25日(水)
- 試験日 令和2年12月11日(金)

◎詳しくは、佐賀県農業大学校
0952-45-2144 まで

令和2年度杵藤農林事務所杵島農業改良普及センターの職員紹介

令和2年4月1日付人事異動により新体制となりました。今年もよろしくお願ひします。



お世話になりました

- ◆中島 貞彦 (杵藤農林事務所へ)
- ◆東島 敏彦 (西松浦農業改良普及センターへ)
- ◆牧山 繁生 (東松浦農業改良普及センター上場振興担当へ)
- ◆岩井加奈絵 (藤津農業改良普及センターへ)
- ◆井上 大輔 (藤津農業改良普及センターへ)
- ◆崎山 将太 (佐城農業改良普及センター北部振興担当へ)
- ◆河野 舞 (藤津農業改良普及センターへ)

